

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-194761

(43)Date of publication of application : 30.07.1996

---

(51)Int.Cl.

G06F 19/00

---

(21)Application number : 07-024798

(71)Applicant : OBIC BUSINESS CONSULTANT:KK

(22)Date of filing : 19.01.1995

(72)Inventor : WADA SHIGEFUMI  
NAKAYAMA SHIGERU  
KUROZU SEIICHI

---

## (54) ACCOUNTING FINANCE ACCOUNTS DOCUMENT INPUTTING METHOD BY COMPUTER SUPPORTING SYSTEM

### (57)Abstract:

PURPOSE: To provide a easy input method by the computer supporting system of an accounts document on accounting finance, especially a blue return accounts document.

CONSTITUTION: The accounting finance accounts document input method by the computer supporting system for generating the accounts document of a profit-and-loss statement, a balance sheet, sales/purchasing amount transition table by individual months of a manufacture cost report based on the amounts of a ledger, a book or a receipt and on an item and a head is provided. A system input means selects one of the profit-and-loss statement on the amount, the item and the head, the balance sheet or the manufacture cost report. Then, it is displayed on a system display means. When the new or corrected amount, item and head are inputted and written, a system control means corrects the new or corrected amount, item and head and writes the new and corrected amount, item and head, which are stored, on corresponding positions in the other profit-and-loss statement, the balance sheet, the sales/purchasing amount transition table by individual month or the manufacture cost report, which are not selected.

---

### LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 19.12.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 06.05.2003

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-194761

(43) 公開日 平成8年(1996)7月30日

| (51) IntCl. <sup>6</sup> | 識別記号 | 庁内整理番号 | F I                      | 技術表示箇所 |
|--------------------------|------|--------|--------------------------|--------|
| G 0 6 F 19/00            |      |        | G 0 6 F 15/ 22<br>15/ 30 | Z<br>Z |

審査請求 未請求 請求項の数3 F D (全 6 頁)

|           |                 |          |   |
|-----------|-----------------|----------|---|
| (21) 出願番号 | 特願平7-24798      | (71) 出願人 | 593089895<br>株式会社オービック・ビジネス・コンサルタント<br>東京都新宿区西新宿二丁目1番1号 |
| (22) 出願日  | 平成7年(1995)1月19日 | (72) 発明者 | 和田 成 史<br>東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式会社オービックビジネスコンサルタント内        |
|           |                 | (72) 発明者 | 中 山 茂<br>東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式会社オービックビジネスコンサルタント内         |
|           |                 | (72) 発明者 | 黒 園 成 一<br>東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式会社オービックビジネスコンサルタント内       |
|           |                 | (74) 代理人 | 弁理士 佐藤 英昭   |

(54) 【発明の名称】 コンピュータ支援システムによる経理会計決算書入力方法

## (57) 【要約】

【目的】 経理会計関係の決算書、特に青色申告決算書のコンピュータ支援システムによる容易な入力方法を目指すとする。

【構成】 元帳・帳簿あるいは領収書などの金額およびその科目・項目を基に損益計算書、貸借対照表、月別売上・仕入金額推移表、あるいは製造原価報告書等の決算書を作成するためのコンピュータ支援システムによる経理会計決算書入力方法において、システム入力手段により前記金額およびその科目・項目に関連する前記損益計算書、貸借対照表、あるいは製造原価報告書等の決算書の中の一つを選択して、それを前記システム表示手段に表示させ、少なくとも前記金額およびその科目・項目の新規分又は修正分の入力書込みを行えば、そのシステム制御手段は前記新規分又は修正分を記憶して選択しなかった他の損益計算書、貸借対照表、月別売上・仕入金額推移表、あるいは製造原価報告書等にも記憶した前記新規分および修正分の金額および科目・項目を対応する位置に書込むことを特徴とする。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 元帳・帳簿あるいは領収書などの金額及びその科目・項目を基に損益計算書、貸借対照表、月別売上・仕入金額推移表、あるいは製造原価報告書等の決算書を作成するためのコンピュータ支援システムによる経理会計決算書入力方法において、システム入力手段により前記金額及びその科目・項目に関連する前記損益計算書、貸借対照表、あるいは製造原価報告書等の決算書の中の一つを選択して、それを前記システム表示手段に表示させ、少くとも前記金額及びその科目・項目の新規分又は修正分の入力書込みを行えば、そのシステム制御手段は連動して前記新規分又は修正分を記憶して選択しなかった他の損益計算書、貸借対照表、月別売上・仕入金額推移表、あるいは製造原価報告書等にも記憶した前記新規分及び修正分の金額及び科目・項目を対応する位置に書込むことを特徴とするコンピュータ支援システムによる経理会計決算書入力方法。

【請求項2】 前記経理会計決算書は青色申告決算書であり、前記システム入力手段により前記青色申告決算書の損益計算書、貸借対照表、あるいは製造原価報告書等を選択して、新規分又は修正分の売上金額、収入金額あるいは現金及びその科目を入力すれば、前記システム制御手段は連動してそれを記憶し、選択されなかった損益計算書、貸借対照表、月別売上・仕入金額推移表、あるいは製造原価報告書等の対応する科目・項目の書込みと記憶を行い、前記青色申告決算書の表示又は印刷出力が要求されたときは、リアルタイムで前記新規分及び修正分の科目・項目を含めた決算書を前記表示手段に表示又は印刷出力することを特徴とする請求項1記載のコンピュータ支援システムによる経理会計決算書入力方法。

【請求項3】 前記コンピュータ支援システムは前記表示手段にウインドウ枠を設けたウインドウ表示内でポインティングデバイス入力手段を使用してプログラム処理を行えるウインドウ構造体のデータ構造を有するウインドウ形式オペレーティングシステムに制御されたことを特徴とする請求項1または2記載のコンピュータ支援システムによる経理会計決算書入力方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 この発明はコンピュータを使用して経理会計に関する決算書、特に青色申告決算書などを生成する際の入力方法に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 経理会計決算書、特に青色申告決算書などをコンピュータなどを使用して作成する従来の例を説明する。図2にウインドウ形式オペレーティングシステムであるWINDOWS（マイクロソフト社の登録商標）オペレーティングシステムに制御されたアプリケーションウインドウ2内に仕訳帳入力画面を表示したものである。

【0003】 この仕訳帳入力では、通常の経理会計の一般的な方法である借方・貸方各科目を指定する形式で仕訳を入力する。図2に基づいて、その入力の順序を説明する。図2で2aは既に入力されている仕訳帳の一部が表示されており、2bにマウスのポインタを合せクリックすれば上/下にページングすることができる。この仕訳帳への入力はキー入力部2cで行う。ここで、キー入力部2cの各欄へ以下のように入力を行う。

【0004】 (1): 取引相手を数字番号により符号化した取引辞書コードを辞書欄に入力する。

(2): 日付を日付欄に入力する。

(3): 伝票番号を伝票No欄に入力する。

(4): 借方科目名のコード名を入力する。すなわち、総勘定科目コードとその補助科目コードをそれぞれ総勘/補助欄に入力する。

(5): 貸方科目名のコード名を入力する。すなわち、総勘定科目コードとその補助科目コードをそれぞれ総勘/補助欄に入力する。

(6): 金額を金額欄に入力する。

(7): 消費税金額を消費税欄に入力する。

(8): 摘要があればそれを摘要欄に入力する。

(9): 付箋があればそれを付箋欄に入力する。

(10): 以上の最後に登録命令を登録(T)キーにマウスのポインタを合せて入力し確定させる。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】 従来のコンピュータ支援システムによる経理会計決算書の入力方法は以上のものであったので、このような借方・貸方という入力形式は日々の取引を仕訳するための簿記の知識が必要不可欠であった。

【0006】 また、青色申告決算書などの場合は、更に、前記仕訳帳から青色申告決算書上の科目に割り付ける連動計算を行って集計する処理が必要となっていた。

【0007】 本発明の目的は以上のような問題点を解消するためになされたもので、入力する仕訳事項を画面上で決算書の複数の各書類を同時に見て確認しながら、簿記の知識がなくとも入力できるようにすることを目的とする。特に、青色申告決算書入力では青色申告決算書に手書き入力するような画面イメージで入力できるようにして各科目その項目入力毎にリアルタイムに決算額が各決算書に連動計算されて表示され、各科目その項目毎に確認しながらタイムロスなく入力作業が行えることを目的とする。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】 本発明に係るコンピュータ支援システムによる経理会計決算書入力方法は、元帳・帳簿あるいは領収書などの金額及びその科目・項目を基に損益計算書、貸借対照表、月別売上・仕入金額推移表、あるいは製造原価報告書等の決算書を作成するためのコンピュータ支援システムによる経理会計決算書入力

方法において、システム入力手段により前記金額及びその科目・項目に関連する前記損益計算書、貸借対照表、あるいは製造原価報告書等の決算書の中の一つを選択して、それを前記システム表示手段に表示させ、少なくとも前記金額及びその科目・項目の新規分又は修正分の入力書込みを行えば、そのシステム制御手段は連動して前記新規分又は修正分を記憶して選択しなかった他の損益計算書、貸借対照表、月別売上・仕入金額推移表、あるいは製造原価報告書等にも記憶した前記新規分及び修正分の金額及び科目・項目を対応する位置に書込むことを特徴とする。

【0009】また本発明は、前記経理会計決算書は青色申告決算書であり、前記システム入力手段により前記青色申告決算書の損益計算書、貸借対照表、あるいは製造原価報告書等を選択して、新規分又は修正分の売上金額、収入金額あるいは現金及びその科目を入力すれば、前記システム制御手段は連動してそれを記憶し、選択されなかった損益計算書、貸借対照表、月別売上・仕入金額推移表、あるいは製造原価報告書等の対応する科目・項目の書込みと記憶を行い、前記青色申告決算書の表示又は印刷出力が要求されたときは、リアルタイムで前記新規分及び修正分の科目・項目を含めた決算書を前記表示手段に表示又は印刷出力することを特徴とする。

【0010】また本発明は、前記コンピュータ支援システムは前記表示手段にウインドウ枠を設けたウインドウ表示内でポインティングデバイス入力手段を使用してプログラム処理を行えるウインドウ構造体のデータ構造を有するウインドウ形式オペレーティングシステムに制御されたことを特徴とする。

【0011】

【作用】経理会計決算書である損益計算書、貸借対照表、あるいは製造原価報告書等の中の一つをキー入力などによるシステム入力手段により選択し、システム表示手段に表示させる。次に、システム制御手段によりその表示画面上で、新規分又は修正分の種類及びその科目・項目を入力書込みを行う。ここでシステム制御手段は各科目・項目毎に連動して表示画面にない、すなわち、選択しなかった他の損益計算書、貸借対照表、月別売上・仕入金額推移表、あるいは製造原価報告書等の対応科目その項目への新規分又は修正分の書込みを行う。

【0012】経理会計決算書が青色申告決算書である場合は次のようになる。青色申告決算書の書類の中の一つを選択してその書類の表示画面を出し、それに各科目・項目毎に入力すれば、その科目・項目に対応する他の総ての書類の科目・項目にリアルタイムで連動して書込みが行われ、確認のため選択画面以外の画面を表示させれば何時でも、入力した新規分又は修正分の科目その項目を含めた画面を見ることができる。

【0013】前記ウインドウ形式オペレーティングシステムに制御されたコンピュータ支援システムにおいては選択画面以外の画面も同時に表示することにより新規又は修正入力分が各科目その項目毎にリアルタイムで連動して各画面に表示され、確認が速く、容易に行われ、タイムロスの少ない入力作業が行える。

【0014】

【実施例】図1に本発明の一実施例を示す。図1は青色申告決算書入力の場合であり、その中の青色申告書が選択され、表示画面に表示された様子を示す。ここで、この表示画面はウインドウ形式オペレーティングシステムの一つであるWINDOWSオペレーティングシステムに制御された表示画面で示されている。

【0015】図1の1aはシステム入力手段（キーボード入力装置又はマウスポインティング装置など）によりWINDOWSのアプリケーションウインドウである青色申告決算書ウインドウ1の中に選択された青色申告書である。1bはこの位置にマウスポインティング装置に合せて、前記選択された青色申告書1aの内容科目・項目を上／下にスクロールすることができる上下制御部である。同様に、1dは前記青色申告書1aを左／右にスクロールすることができる左右制御部である。

【0016】また、1cは青色申告書1aへのキー入力部であり、このキー入力部1cの科目のそれぞれの項目に入力して、登録（T）キーにマウスのポインタを合せてクリックすれば確定する。以下に登録（T）キーを入力し、入力科目その項目を確定するまでの手順の一例を述べる。

【0017】（a）：青色申告決算書の中の損益計算書の「売上（収入）金額」の科目（または、貸借対照表の「現金」の科目など）を選択する。

（b）：続いてその内訳である総勘定科目を選択する。

（a）で「売上（収入）金額」を選択したときは表1のようなウインドウが図1に示すように青色申告書1aの中にサブウインドウ1eとして小さく開く。

【0018】

【表1】

|     |        |
|-----|--------|
| 1-1 | 売上金額   |
| 1-2 | 家事消費等  |
| 1-3 | 雑収入    |
| 1-4 | 売上値戻り高 |

【0019】ここで、そのサブウインドウ1eの中の1-1売上金額にマウスのポインタを合せてクリックすると表2に示すようなサブウインドウ1eに画面が変わる。

【0020】

【表2】

|             |           |
|-------------|-----------|
| 1-1 売上金額    | 600 売上金額  |
| 1-2 家事消費等   | 608 役務収益  |
| 1-3 雑収入     | 700 受取利息  |
| 1-4 売上値引戻り高 | 701 受取配当金 |

【0021】ここで、600売上金額にマウスのポインタを合せてクリックし、それを選択する。すなわち、総勘定科目の選択をしたことになる。

(c)：次に取引辞書コードを辞書欄に入力する。但し、必ずしも入力する必要なく、逆に入力した場合は、後述する(f)の入力は必要なくなる。すなわち、自動的に(f)の対象科目を表示する。

(d)：日付を日付欄に入力する。

(e)：伝票番号を伝票No欄に入力する。

(f)：対象科目名のコードを入力する。すなわち、総勘定科目コードと補助科目コードをそれぞれ総勘定と補助の欄に入力する。

(g)：金額を入金または出金欄に入力する。

(h)：消費税金額を消費税欄に入力する。

(i)：もしあれば摘要を摘要欄に入力する。

(j)：もしあれば付箋を付箋欄に入力する。

(k)：登録(T)キーによりマウスのポインタに合せてクリックし入力事項を確定させる。

【0022】以上のように画面形態は青色申告決算書を手書き入力するようなリアルイメージで入力できる。また、その科目およびその項目の入力において、簿記の知識を要する借方・貸方の振り分け入力の必要がなく、前記(g)に示すように金額を入金したか出金したかが解ればよく、すなわち、その取引の金額の増減が解れば誰でも入力できる。更に、従来のような決算書の他の画面において入力した結果が反映されているか、その場面では解らなかったが、本発明では入力した結果が同一画面上にリアルタイムで反映されるので、すぐ誤入力が解る。

【0023】特に、青色申告決算書の場合は決算額や青色申告控除前の所得金額を把握できるなど確認方法が容易にできるので、入力に際してのタイムロスが非常に少くなる。

【0024】

【発明の効果】本発明は下記のような効果を奏する。従来は仕訳を行う仕訳帳を基とし、それに基づいて仕訳帳入力を行う。すなわち、借方入力、貸方入力に分けて入力を行い、その仕訳帳の完了によりそれに基づいて決算書が作成される。つまり、仕訳帳を行う入口の部分と決算書の出口部分が切り離され先ず入口の仕入帳から入力し、これをもとに出口の決算書を連動計算しなければならないのが従来の方法である。これに対して、本発明の方法は仕訳帳などの入力が必要なく、従って借方入力、貸方入力に関する知識は必要とせず、入金か出金か解ればよく直接決算書である損益計算書、貸借対照表、あるいは製造原価報告書などのいずれかに新規事項及び修正事項を入力すれば、入力した結果がリアルタイムに決算書全体の書類に反映する。従って新規事項及び修正事項入力毎に逐次確認しながら入力できるのでいちいち印刷をせずに各科目の決算額を把握できる効果がある。また、特に、青色申告決算書の時は青色申告控除前の所得金額を把握できたり、それらを印刷せずに各科目・項目の決算額を確認できる効果がある。このように入力した新規事項や修正事項はリアルタイムで青色申告決算書全体の書類表示画面に同時に表示され反映された状態を逐次確認しながら入力して行くのでタイムロスが殆どない効果もある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例の入力方法を説明するための青色申告書の表示画面を示す。

【図2】従来の入力方法を説明するために仕訳帳の表示画面を示す。

【符号の説明】

1 青色申告決算書ウィンドウ

1a 青色申告書

1c キー入力部

【図 1】

[illegible]